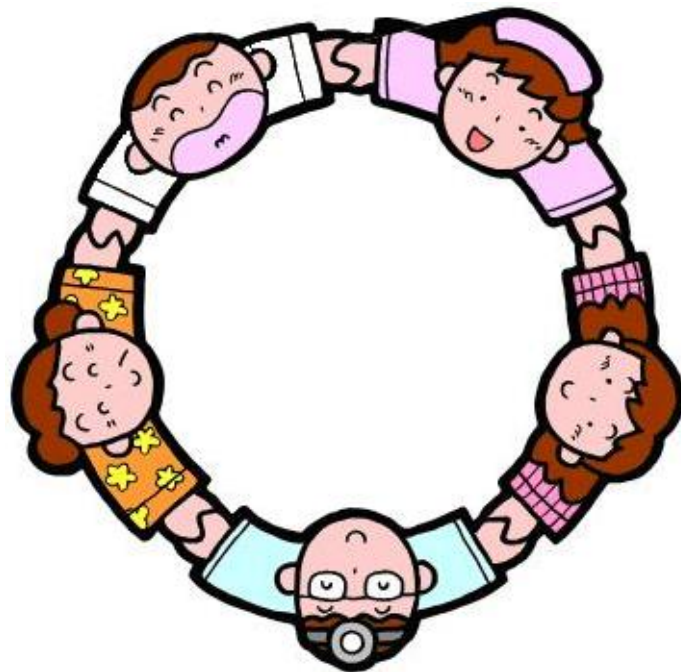


ティーエスワン®を 服用される患者さんへ



2013年3月 改訂版

国立がん研究センター中央病院
肝胆膵内科・薬剤部・看護部

はじめに

膵がん・胆道がんの治療には主なものとして外科療法・放射線療法・化学療法（抗がん剤）の3つがあります。癌の進行度と全身状態などを考慮して、このうちのひとつ、あるいはこれらを組み合わせた治療が行われます。化学療法は、内服薬や注射薬によって抗がん剤を全身へいきわたらせ、がん細胞の増殖や進展を抑える全身的な治療です。ティーエスワン®は膵がん・胆道がんの治療に用いられる代表的な抗がん剤（内服薬）です。

抗がん剤は、がん細胞だけでなく、体の正常な細胞にも作用し、副作用となって現れます。しかし、副作用は薬の種類によっても異なりますし、現れ方は個人差があるので症状の種類や強さも人によって異なります。抗がん剤治療を受けるにあたり、薬の副作用の種類、その予防法や対処法をよく知り、副作用を防いだり、症状を軽くしたりして、安心して日常生活を送ることは大切です。

この小冊子にはティーエスワン®による治療について、薬の内容や起こりうる副作用の種類とその対策についてまとめました。これから抗がん剤治療を受けられる皆様が、安心して治療を受けられるために、この小冊子を役立てていただければ幸いです。

ティーエスワン[®]とは

ティーエスワン[®]は世界中で広く治療に使われているフルオロウラシルという抗がん剤の効果を高め、副作用を少なくするために開発された薬（内服薬）で、3つの成分（テガフル・ギメラシル・オテラシル）が配合されています。

テガフル

体の中で徐々にフルオロウラシルに変わり、抗がん作用を発揮します

ギメラシル

フルオロウラシルの分解を抑えて効果を持続させます

オテラシル

消化器系の副作用（下痢など）を軽くします

治療を始める前に

飲み始める前の注意点

一緒に使用してはいけない薬や注意しなければならない薬があります。

現在、他の診療科や病院を受診している人は、使用中の薬を担当医師・看護師・薬剤師に必ずお知らせください。

他の診療科や病院を受診する場合は、事前に担当医師・看護師・薬剤師に申し出てください。また、受診先の医師にはティーエスワン®を服用中であることを必ず伝えてください。

一緒に使用してはいけない薬： フッ化ピリミジン系の薬

フッ化ピリミジン系抗がん剤：

5-FU®、フルツロン®、ユーエフティ®、ゼローダ®、
フトラフル® など

フッ化ピリミジン系抗真菌剤：

アンコチル®

注意しなければならない薬：

他の抗がん剤

フェニトイン（アレビアチン®、ビダントール®）

ワルファリンカリウム（ワーファリン®、ワルファリンカリウム®、アレファリン®、ワーリン®、ワルファリンK®）

内服方法

1日2回 朝食後・夕食後に飲む薬です
(**食後30分**が目安です)

- 服用量は、患者さんの身長と体重から決められています。体の大きさに合わせて下の2種類のカプセルのうちどちらかを服用します。

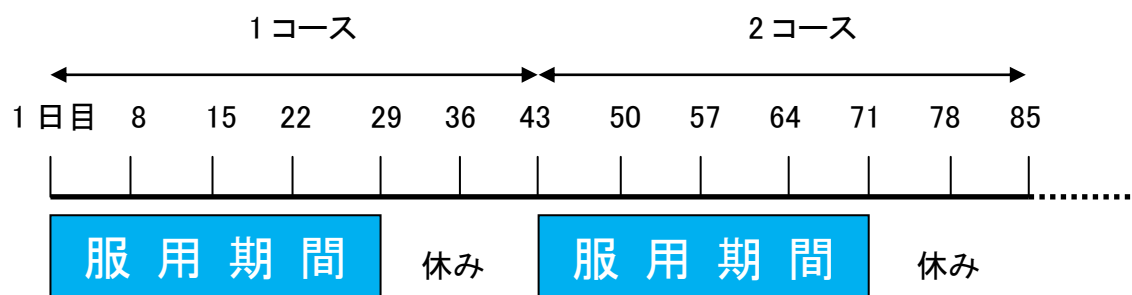


必ず包装からカプセルを取り出して（1回分の個数だけ）服用してください！

- 飲み忘れた時は、飲み忘れの分はとばして次の分から服用してください。

絶対に 2回分を1度に飲まない てください！

- <ティーエスワン[®]単独の場合>通常 28日間（4週間）毎日続けて飲み、その後 14日間（2週間）お休みします。これを1コースとして繰り返します。



副作用とその対策

抗がん剤は、がん細胞だけでなく、正常な細胞にも作用するため、副作用がしばしば現れることがあります。副作用には、自覚症状があるもの、検査を受けなければ気づかないような自覚症状がないものがあります。

治療は、体の状態をみながら、副作用と効果のバランスを考えて進めるので、体の異常を感じたらすぐにご相談ください。

予想される主な副作用

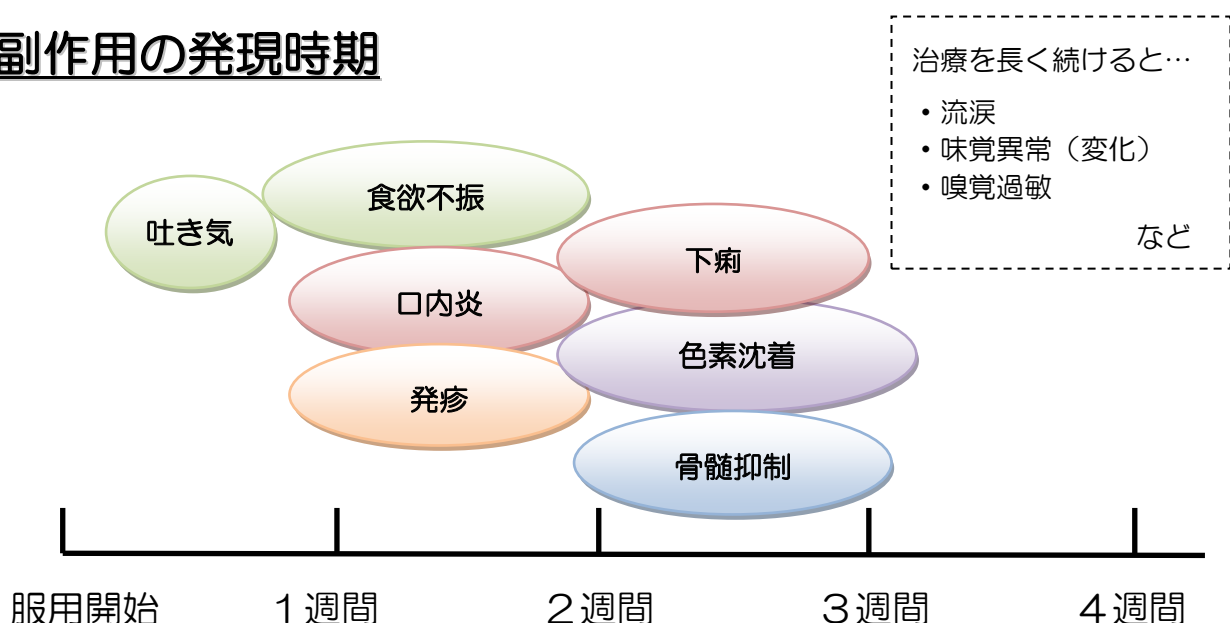
■ 自覚症状があるもの

吐き気・嘔吐・食欲不振・口内炎・下痢などの消化器症状、色素沈着、発疹、疲労感 など

■ 自覚症状がないもの

骨髄抑制（白血球減少・赤血球減少・血小板減少など）、肝機能低下 など

副作用の発現時期



消化器症状

吐き気・食欲不振 ～食事の工夫を～

吐き気は服用開始後 1 週間以内に起こることがあり、場合によっては吐いてしまうこともあります。薬を吐いてしまったときは記録を残し、その回は飲まずに診察時に医師に伝えてください。

食欲不振は服用開始後約 1 週間ごろから現われてきます。

対策

- 食欲がないときは無理せず、食事を控えめにし、ゆっくり時間をかけて食べたり、消化の良いものを少量ずつ何回にも分けて食べたりするなどの工夫をするとよいでしょう。
- 脂っこいもの・においの強いものは避け、さっぱりとしたものを食べましょう。
- 味覚変化や嗅覚過敏で食べ物の好みが変わることがあります。その時の味覚にあうよう、食事内容を工夫するとよいでしょう。
- 熱いものはにおいが強いので冷ましてから食べるとよいでしょう。
- においを不快に感じるものは近くに置かないようにしましょう。
- 口の中を清潔にしたり、室内の換気をすることで予防することもできます。



骨髄抑制

白血球の減少 ～感染症にかかりやすくなります～

白血球は体内へ細菌が入り込まないように守り、感染症を防ぐ重要な役割があります。白血球が減少すると、体の抵抗力が低下して感染症にかかりやすくなります。一般的に薬を服用開始してから 1 週間前後に白血球の数が少なくなるといわれています。

発熱や感染症の可能性がある場合は、抗菌剤を服用したり、点滴を受けたりすることもあります。感染症を引き起こさないようにするため、感染しても悪化させないためにも、早めの対策を心がけましょう。

対策

- 手洗い、うがいをこまめにしましょう。
- 風邪をひいている人になるべく近づかないようにしましょう。
- なるべく人ごみを避けましょう。
- トイレの後は、傷つけないようにやさしく拭きましょう。
- 歯を磨くときは口の中を傷つけないように、毛の柔らかい歯ブラシがおすすめです。
- 皮膚などに小さな傷がついた場合は、消毒薬をつけるなど十分に手当てをしましょう。



赤血球減少 ～貧血症状につながります～

めまい・立ちくらみ、冷え、だるさ、息切れ、動悸などの症状があります。

貧血の程度が著しい場合は、輸血を行うこともあります。

対策

- 激しい運動は控え十分に体を休ませましょう。
- ゆっくりと行動し、転倒しないよう気をつけましょう。
- めまいやふらつきなどの症状があるため、危険な場所は避けましょう。

血小板減少 ～出血しやすくなります～

血小板は、血液を固まりやすくする働きがあります。血小板の数が少なくなると、出血しやすくなります。

血小板の数が少なくなり、出血傾向がみられる場合は、輸血を行うこともあります。

身に覚えのない内出血や血便・血尿・鼻血などが見られたら、すぐに連絡してください。

対策

- ケガや転倒の危険性がある作業はなるべくさげましょう。
- 体を洗うときに強くこするのはやめましょう。
- トイレの後はやさしく拭きましょう。
- 歯ブラシは毛の柔らかいものを使い、やさしく磨くようにしましょう。

その他の症状

下痢 ～脱水になる危険性も～

脱水予防のために、水分補給を心がけましょう。

排便後は、強くこすらないようにし、肛門周囲を清潔に保つようにしてください。

症状がひどいときには、下痢止めの薬を服用することもあります。

腹痛を伴ったり、1日4回以上の下痢や、夜中に下痢があるような時は、すみやかに医師に相談してください。

口内炎 ～食べ物がしみたり、痛みや歯ぐきの腫れ など～

口内炎が感染症の原因にもなることがあります。

口腔内を清潔に保つためにうがいをこまめにしましょう。歯ブラシは毛の柔らかいものを使いましょう。食べ物は熱いものを避け、なるべく柔らかいものを食べるとよいでしょう。症状によっては、うがい薬や塗り薬を用いることがあります。



★注意★

飲み始めて数日以内に、口内炎と下痢が同時に起こった場合は特に注意が必要です。すみやかに医師に連絡してください。

色素沈着 ～皮膚や爪が黒くなったりします～

皮膚や爪、指先などが黒くなったりします。直射日光にあたる場所でできやすいとの報告もあるので、日差しの強い場所を避け、外出時は帽子や衣類で直射日光を避けることで予防になるかもしれません。

発疹 ～皮膚が赤くなったりかゆくなったりします～

首筋や手、足、背中などの皮膚が赤くなったり、かゆくなったりすることがあります。刺激の少ない木綿の肌着を着用するなど、皮膚への刺激を避けましょう。

特に飲み始めて数日以内に全身にかゆみや痛みを伴う場合は、医師・看護師・薬剤師に相談してください。



流涙 ～涙がでたり、目が充血したりします～

涙が止まらなくなったり、目が充血したり、目がかすんだりすることがあります。ひどい場合は、結膜炎や角膜炎になったり、涙が流れる管がつまることもあります。治療を始めたころよりも治療期間が長くなると症状が現れやすくなります。流水で目を洗うと症状が和らぐことがあります。また、目薬をさして対処する場合があります。

重大な副作用

「重大な副作用」と呼ばれるものには次のようなものがあります。どんな薬にもそれぞれ「重大な副作用」があり、まれではあるものの起こると重篤になってしまうものをいいます。

間質性肺炎(0.3%) ～咳、息切れ、発熱 など～

日頃から自分の体調に変化がないか意識し、**風邪に似た症状**がないかどうかをチェックするようにしてください。



間質性肺炎は、頻度はごく少ないものの、ときに重い症状になる恐れがあり、特に注意すべき副作用です。肺が炎症を起こし、機能が低下するので、息切れ・咳・呼吸困難などの症状が現れます。初期には、軽度の発熱や咳など、風邪とよく似た症状が現れることが多く、ただの風邪と見過ごされやすいことがあるので、このような症状がある場合は、自分で判断せずにすぐに相談してください。疑いがあるときには、速やかに必要な検査を行い、適切な治療を行います。

その他の重大な副作用

- 播種性血管内凝固症候群（DIC）（0.4％）：内出血・血が止まりにくい
- 劇症肝炎（頻度不明）：食欲不振・倦怠感・吐気・嘔吐・発熱・皮膚や目の白い部分が黄色くなる
- 脱水症状（頻度不明）：口の渇き・頭痛・吐気・めまい・皮膚の乾燥・体温上昇・倦怠感
- 腸炎（0.5％）：激しい腹痛・下痢
- 消化管潰瘍（0.5％）、消化管出血（0.3％）、消化管穿孔（頻度不明）：腹痛・血便（黒色）・吐血
- 心筋梗塞、狭心症、不整脈、心不全（頻度不明）：胸痛・失神・動悸・息切れ
- 急性腎不全（頻度不明）：尿量が減る・手足のむくみ・頭痛
- 皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、中毒性表皮壊死症（Lyell症候群）（頻度不明）：皮膚の灼熱感・水ぶくれ・口内のあれ
- 白質脳症等を含む精神神経障害（頻度不明）：記憶力低下・言語障害・眠気・手足の動きが鈍る・失禁
- 急性膵炎（頻度不明）：腹痛・吐気・嘔吐
- 横紋筋融解症（頻度不明）：筋肉痛・脱力感・尿が赤くなる
- 嗅覚障害（0.1％）：においの感覚が弱くなる

このような症状が現れるのはごくまれですが、起こると重篤になってしまう恐れがあるので、気になる症状があればすぐにお知らせください。

おわりに

治療を受けるにあたってのおねがい

～安全な治療を受けるために～

- 現在飲んでいる薬（薬局で購入したものも）、サプリメント
- 以前に薬の服用や注射を受けたあと、発疹やかゆみなどが出たことがあるもの
- 気になる症状、体調の変化

以上のことは、どんな些細なことでもすべて伝えてください。また、治療を受けているすべての病院や薬局に、ティーエスワン®を内服していることを伝えてください。

治療を受けているときは、不安や疑問が出てくると思います。そのようなときは、遠慮なく医師・看護師・薬剤師にご相談ください。不安や疑問を解消することで、安心して治療に臨むことができると思います。

また、体調がよいときには、散歩をしたり、音楽を聴くなどの趣味を楽しむことで、よりいっそうリラックスして治療を受けることができるでしょう。



こんなときには病院に連絡を！

以下のような症状があるときには、無理にティーエスワンを継続せずに、病院へ連絡しましょう。

- 水のような便が続くとき
- 吐き気や食欲不振、または口内炎で食事ができないとき
- 38℃以上の熱が出たとき
- 息切れや痰をからまない咳が続くとき
- その他、体調が悪化したとき

メモ

連絡先

病院名 国立がん研究センター中央病院

電話番号 03-3542-2511

担当医師

担当薬剤師

監修 肝胆膵内科
作成 肝胆膵内科・薬剤部・看護部